

社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会

創立40周年

昭和53年設立

本県身障者によりそい40年



鹿児島県

かんぎ

成宜



鹿児島県身体障害者福祉協会
会長 佐藤 彰 矩

『創立40周年を迎えて』

発行所

社会福祉法人
鹿児島県
身体障害者福祉協会

鹿児島市小野一丁目1-1
ハートピアかごしま3階
電話099-228-6271

発行人 佐藤 彰 矩
かんぎ 第152号

社会福祉法人鹿児島県身体障害者福祉協会は、昭和53年3月に発足してから今年で40周年を迎えることができました。これもひとえに、関係各位の心温まるご理解とご協力の賜と心から御礼申し上げます。また、歴代会長をはじめ役員の方々の多大なるご尽力に対しまして心から感謝申し上げます。

当協会は、設立以後、障害者の地域における自立や社会参加の推進するため様々な活動を行ってまいりました。平成12年には、現在のハートピアかごしまに移転し、障害者自立交流センター及び視聴覚障害者情報センター（旧点字図書館）の管理運営を受託し、障害者のスポーツ・レクリエーション及び文化活動の支援や視聴覚障害者の生活・文化の向上に努めてまいりました。

平成19年度からは、身体障害

者としての障害者を統合した障害者スポーツ大会を開催するなど障害者のスポーツ振興にも取り組んでまいりました。平成32年には、本県において全国障害者スポーツ大会が開催されます。関係団体と連携しながら、障害者スポーツの裾野を広げてまいりますとともに、選手の育成・強化にも取り組み、県民の障害者スポーツへの理解と関心を高めてまいりたいと考えております。

そして、近年、障害者を取り巻く環境は大きく変化しようとしております。とりわけ、私がお会に就任しました平成25年4月以後は、国においては、障害者差別解消法の施行や障害者権利条約の批准、本県においては、障害のある人もない人も共に生きるかごしまづくり条例の制定や第5期障害者計画が策定されるなど、共生社会の実現に向けた取組が進められております。

一方で、障害者に対する県民の理解不足、地域間での障害者福祉サービスの格差などまだまだ多

くの課題があり、当協会が担う役割は今後ますます増大していくと考えております。

設立40周年は一つの節目です。人間の年齢に例えらるとまだまだ若い「不惑」に当たります。これを新たな出発点とし、今後とも「障害のある方が当たり前のよう」に地域の行事やイベントに参加できる社会、「地域にもっと障害のある方の声が届く社会」の実現を目指し、役員一丸となって障害者福祉の向上に取り組んでまいりますので、皆様により一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

の理解不足、地域間での障害者福祉サービスの格差などまだまだ多



平成12年 ハートピアかごしま開館

かんぎの製作費の一部に鹿児島県共同募金の配分金を充たせていただいています。

『鹿児島県身体障害者福祉協会』

設立40周年にあたって

鹿児島県くらし保健福祉部

部長 中山清美

社会福祉法人鹿児島県身体障害者福祉協会が設立40周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴協会は、昭和53年に、県内に居住する肢体・視覚・聴覚・言語及び身体の内部に障害のある方々と相携えて、その自立と社会、経済、文化その他のあらゆる分野の活動への参加を促進することを目的に設立され、以来、身体障害者の更生相談への対応をはじめ、文化・芸術活動や各種スポーツ大会の開催等、多方面にわたる活動を積極的に展開され、本県における身体障害者の福祉の向上に、大きな成果を挙げておられます。このような日頃の御尽力・御協力に対し、深く敬意を表しますとともに、厚く御礼を申し上げます。

本県におきましては、本年3

に向けて、障害者スポーツの普及・拡大や、参加選手の確保・育成に努めております。

今後とも、関係機関・団体や市町村等との連携を図りながら、障害のある方々の自立と社会参加に向けた施策に取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層の御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

進など、「障害者一人ひとりの人格と個性が尊重される社会づくり」を目指し、各種障害者施策に取り組んでいるところです。また、2020年に本県で開催される第20回全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動がごしま大会」

結びに、鹿児島県身体障害者福祉協会の、今後ますますの御発展と会員の皆様の御健勝・御活躍を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。

で福祉の仕事の手伝いでもできればと思いい、平成3年に帰郷しました。鹿児島経済大学（現鹿児島国際大学）の福祉社会学部教授に推薦され、「福祉の現場は理論より心だ」と学生に伝わればと思いいお引き受けしました。が、いざ教壇に立つてみると、色々苦労することもありました。が、私の思いは少なからず伝わったのではないだろうか。

近藤元会長から「後を」と頼まれ、協会の会長に就任しましたが、すぐ後悔しました。池田和夫さん他、適任者がたくさんおられたのを実感したからです。

感をかけましたが、今でも心が繋がっている人もいます。関係者の皆様の多大なるご協力・ご理解に心から感謝いたしております。一方で、時折厳しいお言葉を賜ることもありましたが、それは前述したとおり、私が會長たる資質に欠けていたということに起因するもので当然のことと自覚しております。最後に九州管内の協会においては、協会の職員が事務局長・常務・会長になっておられるところもあります。鹿児島県もそのように組織が充実強化されることを期待しております。

『ハートピアがごしまと共に』

鹿児島県身体障害者福祉協会

前会長 戸口田 三千尋

近藤重和元会長とは、厚生省（現厚生労働省）で仕事上かなり早くからお付き合いがありまして、身連の副会長の中で重用され、た。当時の日身連会長は、灘尾実質会長代行のように活躍されていました。

抜けた清廉な方で神様のような

私も厚生省退職後は、鹿児島

近藤元会長からは、主に日身連での仕事を、と言われていましたので、当時の日身連会長をしてもらった佐賀県会長を助けるべく孤軍奮闘しました。その後、日身連の副会長になり、會長も近くなりましたが、結果として近藤元会長の期待には沿えませんでした。

調が大事だと思つて取り組みました。身障協職員の皆様にも迷



平成12年ハートピア会館のテープカット（一番左が戸口田会長）

『鹿児島県身体障害者福祉協会』

設立40周年にあたって

鹿児島県視覚障害者団体連合会

前会長 清 藤 郁 雄

社会福祉法人鹿児島県身体障害者福祉協会の設立40周年、おめでとうございます。

昭和53年頃の本県における視覚障害者の組織は、県の視覚障害者団体連合会に係るものだけで20数の市町村に支部協会があり、總會等には離島を含めた各市町村の代表などが集結して年間活動の審議を行っていた時期で、会員も100名ほどいたと思います。

当時は、同行援護（移動支援）や盲導犬の貸与などの福祉制度も整っておらず、視覚障害者の単独での移動は困難な状況で、周囲に支援者のいない移動手段のない視覚障害者は買い物や会合の出席などの外出は大変だったと思います。そのような時代だったからこそ組織に結集する力があつたのではないかと考えられます。

て、障害者に対する認知度も高まってきた、行政における制度も、措置制度（サービスの利用を申し込んだ希望者に対し、自治体が福祉サービスを利用できる条件を満たしているかを審査し、その審査結果に応じてサー

『身体障害者福祉協会』

設立40周年にあたって

一般社団法人 鹿児島県聴覚障害者協会

前会長 寿 福 三 男

創立40周年おめでとうござい

ます。心よりお祝い申し上げます。貴団体の40周年を振り返り印象にあることをお話ししますと、まず初代会長の近藤重和氏は大きな影響力を持つ方で、平成12年に完成したハートピアがごしまの開所記念に皆さんの夢であつた鹿児島車いす競走大会を実現させたことです。

ビスの利用可否や利用先が決定される）から、障害者自身がサービスを選ぶことの出来る支援費制度・自立支援制度・総合支援制度へと発展し、障害があつても地域社会の中で一人として生きられる条件が制度上は少しずつ出来てきたと思います。これは、障害者自身の自覚心の高まりとともに、福祉協会が、障害の種別を乗り越えて、共通する部分で結集し下部組織を指導運営してこられた成果だと思います。

尋氏はあいさつをする時に手話で自己紹介をされたり、手話入門講座を学んでいただいたことを覚えております。

現在の第3代会長の佐藤彰矩氏は、評議員に内部障害の団体代表を加えるなど障害者団体との連携を深め、障害者の福祉向上に取り組んでおられます。私達聴覚障害者団体としての活動にも、大きな影響を与えてくださっております。本当に感

ただ、制度は充実しても、一般社会にあつては障害者に対する理解は少なく、たとえば目が見えないと何にも出来ないと思つていたり、点字ブロックの上に乗る物を置いたり、社会の無理解による差別はまだまだ数え切れないほどです。

このような時代だからこそ、身体障害者福祉協会が、障害の種別があつても共通する目標に向い、活動を充実発展させてい

謝しております。御承知の通り、平成26年3月に「障害のある人もない人も共に生きる鹿児島づくり条例」が制定され、社会も少しずつではあります。障害者への理解等が進んできております。しかしながら、まだまだ充分とは言えません。

聴覚障害者団体としては手話を言語と認める「手話言語条例」「手話言語法」また、「情報コミュニケーション法」制定のため動きが、全国的に広がつております。しかしながら、鹿児島県の取り組みは、他県と比べると遅れており、早急な制定実現のため、現在、委員会を立ち上げ、取り組んでいるところで



平成2年度まで山形屋で開催されていた身体障害者作品展

『福祉協会40周年にあたって』 一般社団法人 全日本ろうあ連盟

山口 健 二
(元福祉協会職員)

社会福祉法人鹿児島県身体障害者福祉協会設立40周年誠にありがとうございます。貴協会には、私にとっても大学時代からお世話になっていました。

まず要約筆記サークル「やまびこ」の結成、発声訓練、鹿児島ろうあ協会(当時)での活動の時さまざまに関わりを持つたことです。特に要約筆記サークルの結成にあたって、亡き近藤重和会長をはじめ会長の奥様近藤セツ様には非常にお世話になったと記憶に残っています。あのときは大学の講義がわからないという私の声で、要約筆記ボランティア養成のきっかけになったこと、大学内の要約筆記講座の開催に後押しされたことが大きかったと覚えています。もし、要約筆記がなかったら、私の大学生活をどう過ごせたかわからなかったですね。そういう意味で、貴協会の存在は大きかったと感謝しています。大学卒業後、民間企業を経て鹿児島県視聴覚障害者情報センターへ就職したことも色々学びました。例えば、聴覚障害者だけでなく、視覚障害者、そして他の障害者の関わりの大切さを学んだお陰で、現在、障害者差別解消法などの取り組みで、お役に立てさせていたいただいています。またセンター職員の業務で、ビデオ製作、さまざまな事業、会計業務など幅広く業務を体験したおかげで、今の業務に生かされています。そういう意味で、鹿児島県身体障害者福祉協会、鹿児島県視聴覚障害者情報センター、鹿児島県聴覚障害者協会での活動は本当に財産の1つになっており、感謝しております。

今後の鹿児島県身体障害者福祉協会のますますのご発展を祈念いたします。



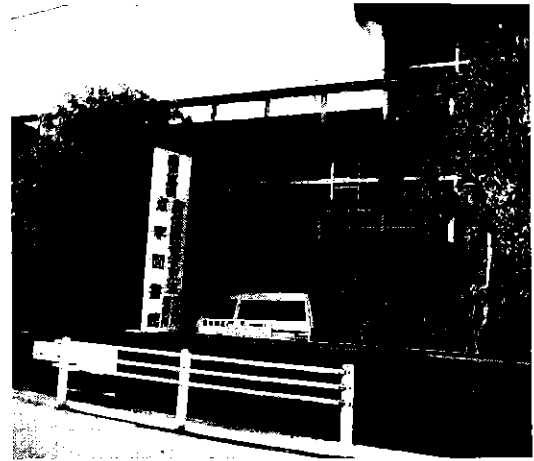
鹿児島県身体障害者福祉協会40年のあゆみ

- 昭和53年3月8日 社会福祉法人 鹿児島県身体障害者福祉協会 設立(身体障害者協会連合会・視覚障害者団体連合会・聴覚障害者協会が組織) ↓現在は、内部障害者団体(腎臓・音声機能障害・リウマチ・オストミー・脊損)も組織の構成員となっている。
- 昭和58年9月1日 広報紙「かんぎ」発行
- 昭和62年4月1日 県点字図書館業務管理受託
- 昭和62年12月1日 点字図書館内に聴覚障害者ビデオライブラリー開設
- 平成元年5月 第34回日本身体障害者福祉大会開催
- 平成7年4月 鹿児島県身体障害者相談員協議会発足
- 平成8年2月 第3回九州ブロック身体障害者相談員研修会開催
- 平成11年10月 第34回九州身体障害者福祉大会開催
- 平成12年3月 近藤重和会長 退任
- 平成12年4月 戸口田三千尋会長 就任
- 平成12年4月 ハートピアかごしま開館 (ハートピアかごしま内に移転)
- 平成12年5月 障害者自立交流センター管理受託
- 平成12年10月 第1回車いす駅伝大会開催
- 平成17年12月 第13回九州ブロック身体障害者相談員研修会開催
- 平成19年5月 第1回鹿児島県障害者スポーツ大会開催 ↓身障と知的のスポーツ大会を統合
- 平成20年12月 近藤重和元会長 逝去
- 平成23年11月 第44回九州身体障害者福祉大会開催
- 平成23年3月 戸口田三千尋会長 退任
- 平成25年4月 佐藤 彰矩会長 就任
- 平成28年1月 第23回九州身体障害者相談員研修会開催



平成12年 車いす駅伝大会

平成4年 障害者施策推進を求めた
列島縦断キャラバンの様子
(右から2人目は近藤会長)

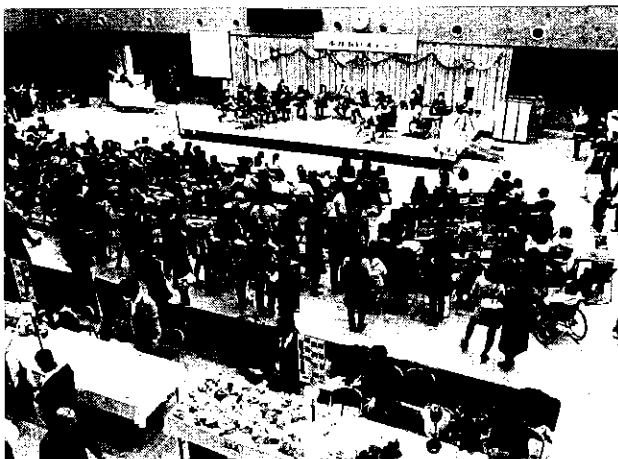


昭和62年当時の点字図書館

水に浸かって廃棄する点字図書
(平成5年8・6水害)



陥没した道路と奥に点字図書館
(平成5年8・6水害)



あつたか交流フェスタの様子



平成28年 全国障害者スポーツ大会(岩手)で
団長をつとめる佐藤会長(プラカード右後)・

平成29年度決算 資金収支内訳表

(自) 平成29年4月1日 (至) 平成30年3月31日

(単位: 円)

勘定科目		法人本部	交流センター	情報センター	内部取引消去	事業区分合計
事業活動による収支	収入					
	会費収入	750,000				750,000
	経常経費寄付金収入	50,000				50,000
	経常経費補助金収入	28,360,000				28,360,000
	受託金収入	31,712,084	52,642,000	55,764,675		140,118,759
	事業収入	4,202,732	8,526,940	3,891,844	-1,447,599	15,173,917
	受取利息配当金収入	23,149		128		23,277
	事業活動収入計(1)	65,097,965	61,168,940	59,656,647	-1,447,599	184,475,953
	支出					
	人件費支出	39,113,013	47,928,243	41,523,224		128,564,480
事業費支出	22,725,096	11,818,635	11,331,534	-1,447,599	44,427,666	
事務費支出	864,660	428,872	969,097		2,262,629	
助成金支出	1,825,000		90,680		1,915,680	
負担金支出	19,000		20,000		39,000	
支払利息支出	2,674				2,674	
事業活動支出計(2)	64,549,443	60,175,750	53,934,535	-1,447,599	177,212,129	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	548,522	993,190	5,722,112		7,263,824	
施設整備等による収支	収入					
	施設整備等収入計(4)					
	支出					
	固定資産取得支出	227,310				227,310
ファイナンス・リース債務の返済支出			3,594,240		3,594,240	
施設整備等支出計(5)	227,310		3,594,240		3,821,550	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-227,310		-3,594,240		-3,821,550	
その他の活動による収支	収入					
	その他の活動収入計(7)					
	支出					
	積立資産支出	669,480	991,690			1,661,170
	その他の活動による支出		1,500	1,000		2,500
その他の活動支出計(8)	669,480	993,190	1,000		1,663,670	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-669,480	-993,190	-1,000		-1,663,670	
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	-348,268		2,126,872		1,778,604	
前期末支払資金残高(11)	12,884,040		4,805,355		17,689,395	
当期末支払資金残高(10)+(11)	12,535,772		6,932,227		19,467,999	

消去レベル: 拠点区分間

平成30年度予算 資金収支内訳表

平成30年4月1日

(単位: 円)

勘定科目		法人本部	交流センター	情報センター	合計
事業活動による収支	収入				
	会費収入	720,000			720,000
	経常経費寄付金収入	50,000			50,000
	経常経費補助金収入	28,360,000			28,360,000
	受託金収入	34,573,000	52,808,000	62,826,000	150,207,000
	事業収入	3,320,000	8,006,000	1,386,000	12,712,000
	受取利息配当金収入	25,000			25,000
	事業活動収入計(1)	67,048,000	60,814,000	64,212,000	192,074,000
	支出				
	人件費支出	38,706,000	47,256,000	44,067,000	130,029,000
事業費支出	26,316,000	11,797,000	16,047,000	54,160,000	
事務費支出	879,000	486,000	878,000	2,243,000	
助成金支出	1,875,000		143,000	2,018,000	
負担金支出	20,000		20,000	40,000	
支払利息支出	1,000			1,000	
事業活動支出計(2)	67,797,000	59,539,000	61,155,000	188,491,000	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-749,000	1,275,000	3,057,000	3,583,000	
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等収入計(4)				
	支出				
ファイナンス・リース債務の返済支出			3,616,000	3,616,000	
施設整備等支出計(5)			3,616,000	3,616,000	
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)			-3,616,000	-3,616,000	
その他の活動による収支	収入				
	投資有価証券償還収入	3,000,000			3,000,000
	その他の活動収入計(7)	3,000,000			3,000,000
	支出				
	積立資産支出	6,840,000	1,275,000		8,115,000
その他の活動支出計(8)	6,840,000	1,275,000		8,115,000	
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-3,840,000	-1,275,000		-5,115,000	
予備費支出(10)	300,000			300,000	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-4,889,000		-559,000	-5,448,000	
前期末支払資金残高(12)	12,542,000		4,333,000	16,875,000	
当期末支払資金残高(11)+(12)	7,653,000		3,774,000	11,427,000	



旗門が設置されたコースでタイムを競うスラローム（陸上競技）

今大会から視覚障害の区分が改定され、区分24ではアイマスク着用が義務付けられた。



5月20日（日）、第12回鹿児島県障害者スポーツ大会が鹿児島県立鴨池補助競技場、鹿児島県立サッカー・ラグビー場、ハートピアかごしま、サンライトゾーンの4会場で盛大に開催されました。6競技（陸上・フライングディスク・水泳・卓球・アーチェリー・ボウリング）1種目（レクリエーション）に身体障害者234名、知的障害者751名がエントリーし、日頃の練習の成果が発揮され、大会新記録が43、大会記録40と好記録が続出しました。

10月13日（土）～15日（月）に福井県で行われる、第18回全国障害者スポーツ大会（福井しあわせ元気大会）へ参加する本県代表選手として、個人競技37名、団体競技ではグラウンドソフトボールの選手14名に加え、本年初めて知的障害者バレーボール女子選手11名の出場が決定しました。役員・介助員48名を含めて合計110名の選手団となります。代表選手は、更なる記録更新を目指して、今後は強化練習を重ねて大会に挑みます。

県障害者スポーツ大会 開催 全国大会 県代表選手団が決定

第18回全国障害者スポーツ大会鹿児島県選手団 選手一覧

競 技	氏 名	障害区分	所 属
陸上競技	前田 究	肢体	鹿児島市
	井手口 勝博	視覚	鹿児島市
	元 栄 孝典	肢体	霧島市
	東 條 悟武	肢体	鹿児島市
	宮 信太郎	聴覚	県立鹿児島聾学校
	亘 喜 天空	肢体	県立鹿児島養護学校
	三 雲 明美	視覚	鹿児島市
	中 西 うらら	肢体	県立鹿児島養護学校
	湯 浦 沙妃	聴覚	薩摩川内市
	今 吉 圭三	知障	SCC
	久木留 清 牙	知障	県立串木野養護学校
	坂 上 楓	知障	鹿児島高等特別支援学校
	吉 脇 健太郎	知障	県立鹿屋養護学校
	畑 中 雅 弥	知障	鹿児島高等特別支援学校
	沖 浦 雄 子	知障	障害者自立支援センターけいわ
	有 馬 佳 苗	知障	サポートなごみ
	池 田 悠 華	知障	県立鹿屋養護学校
水 泳	川井田 翼	聴覚	県立鹿児島聾学校
	小 野 奏 人	肢体	鹿児島市
	満 千 恵	肢体	鹿児島市
	有 村 陸	知障	鹿児島県身体障害者福祉協会
	池 上 寛 朗	知障	(株)日立金属オオマリアル 鹿児島工場
アーチェリー	永 田 道 雄	肢体	霧島市
卓 球	土 橋 伸 吾	肢体	鹿屋市
	坂 口 のり子	肢体	鹿児島市
	田 口 さゆり	視覚	南九州市
	末 吉 航 大	知障	鹿児島城西高校
	鈴 木 公 崇	知障	セルブしぶし
フライングディスク	花 岡 利 博	聴覚	指宿市
	佐久間 伸 次	聴覚	鹿児島市
	清 田 ひとみ	聴覚	鹿児島市
	小 田 博 文	知障	サポートなごみ

競 技	氏 名	障害区分	所 属
	池 田 剛	知障	白藤園
	福 村 優 美	知障	常盤会サポートハウス
ボウリング	湯之上 聡	知障	曾於市
	小 林 岳 弘	知障	天上会
	福 島 雅 彦	知障	福山学園
競 技	氏 名	所 属	
グラウンドソフトボール	木 村 彰 彦	(公財)東風会 三船病院	
	木 村 良 季	県立鹿児島盲学校	
	南 谷 良 弘	県立鹿児島盲学校	
	神 田 裕 透	(医)仁風会日高病院	
	新 澤 竹三郎	(医)介護老人保健施設 スイートケアなかよし	
	西 村 哲 也	(医)親貴会えんでん内科クリニック	
	愛 甲 英 雄	県立鹿児島盲学校	
	富 永 雅 幸	県立鹿児島盲学校	
	藤 崎 強	(医)七徳会大井病院	
	高 部 龍 輔	(医)慈正会宮之原循環器内科	
	中 野 正 人	亀澤整形外科	
	吉 元 祐 平	県立鹿児島盲学校	
	中 村 瑞 穂	(医)木村外科内科	
	大 川 浩 輔	県立鹿児島盲学校	
	久 保 一 美	からだ元気治療院	
知的障害者バレーボール	敷 根 美 保	(社福)拓洋会新葉学園	
	村 岡 智 恵	(社福)拓洋会新葉学園	
	高 妻 梨 帆	ダイレックス栗野店	
	園 田 若 菜	鹿児島市	
	上 稻 葉 春 香	(社福)光陽会特別養護老人ホーム金峰苑	
	今 吉 美 友 華	(社福)慈和会工房あけほの	
	山 内 佐 知 子	(社福)敬天会さちかぜ	
	山 下 まゆみ	肉匠いづみ屋	
	古 殿 阿 寿 佳	鹿児島城西高等学校	
	中 間 由 香	タイヨー知覧店	
	大 峯 元 美	ニシムタ始良店	

第63回日本身体障害者福祉大会ぐんま大会報告

6月13日～14日の2日間、群馬県高崎市において開催され、鹿児島県からは当協会の佐藤会長はじめ12名が参加しました。

大会1日目の6月13日は、平成30年度第1回定時評議員会及び政策協議が行われました。定時評議員会に先立ち、会長あいさつ、財政検討委員会報告、組織強化及び障がい者施策に関する検討委員会中間報告等があり、現在の日身連の置かれている状況について種々の説明がありました。

その後の定時評議員会では、平成29年度の事業内容、評議員の交替、会員規程の一部改正、平成29年度の計算書類等の承認について、満場一致で賛成されました。
午後からは、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局参事官 御手洗潤氏により、「ユニバーサルデザイン2020行動計画がめざす共生社会と障害者団体の役割について」と題した基調講演があり、引き続き、中原福岡市身体障害者福祉協会会長がコーディネーターを、御手洗潤氏、阿部日身連会

長の2名がコメンテーターを、杉田群馬県身体障害者福祉団体連合会会長、小西東京都身体障害者団体連合会会長、浅香札幌市身体障害者福祉協会会長の3名がシンポジストを務め、「地域社会における心のバリアフリーの理解啓発について」のシンポジウムが開催され、それぞれの立場から、活発な意見交換が行われました。

大会2日目の14日は、高崎アリーナで、全国から約1,700名の参加者を迎え盛大に開催され、大会式典では、阿部大会会長から「昭和33年に創設された日身連も本年で60年を迎える。今後もあらゆる場で誰もが活躍できる共生社会の実現に向け、日身連が日本の障害者の中核的存在として期待に応えられるよう取り組んでいきたい」とあいさつがありました。

次に、身体障害者福祉の向上に寄与された功績をたたえ、全国55名の方々に、日身連会長表彰が授与されました。鹿児島県からは四位芳彦さつま町身体障害者福祉連絡協議会会長が表彰を受けられました。
第2部では議事の、平成29年度事業報告並びに平成30年度事業計画の報告、前日に行われた政策協議報告、大会宣言並びに大会決議が満場の拍手で採択さ

れ、盛会のうちに大会は終了しました。
なお、次回大会は来年5月に秋田県で開催されます。

大会スローガン

○ユニバーサルデザイン2020行動計画の完全実施を求めよう
○日身連及び加盟団体の組織強化を図ろう

大会決議

- 一 障害の社会モデルの理解啓発を強く推進しよう
- 一 地域に根ざした心のバリアフリーを広げよう
- 一 災害時における被災者支援の充実を図ろう
- 一 障害者差別を禁止する条例を全国に制定させよう
- 一 地域の相談支援体制に身体障害者相談員を活用しよう

第49回九州身体障害者福祉大会・第26回九州ブロック身体障害者相談員研修会（福岡市大会）のお知らせ

左記日程で開催されます。多数のご参加をお願いします。
日時 平成30年11月15（木）・16日（金）
場所 福岡市
申込先 県身体障害者福祉協会
099-228-6271

身体障害者を対象とする鹿児島県職員採用選考試験を実施します。

【試験区分】一般事務、警察事務
 【受験資格】
 ・身体障害者福祉法第15条に定める身体障害者手帳（1級～6級）の交付を受けている者。
 ・年齢は18歳～30歳（平成31年3月末現在）
 ※上記のほか、居住地などの要件があります。
 【受付期間】9月7日（金）～9月26日（水）
 ※インターネットによる受験申し込みは、9月7日（金）～9月25日（火）
 【第1次試験日】11月11日（日）
 【試験地】鹿児島市
 【その他】
 試験案内および受験申込書は、8月31日（金）から県庁など県の機関で配布。
 なお、受験資格、申込書の配布場所など、詳しくは、県ホームページ（<https://saiyo.pref.kagoshima.jp/>）をご覧ください。
 鹿児島県人事委員会事務局
 電話番号：099-286-3893・3894

第33回障害者による書道・写真全国コンテスト作品募集

本年度も、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会主催で、書道・写真コンテストが開催されます。

行事予定

・第18回全国障害者スポーツ大会
10月13日（土）～15日（月）
福岡県

・九州身体障害者福祉大会
九州ブロック身体障害者相談員研修会
11月15日（木）16日（金）
福岡市

・県障害者保健福祉大会
11月22日（木）
県民交流センター

・「あつたか交流フェスタ2018」
12月2日（日）
ハートピアかこしま

【応募方法】
応募用紙に必要事項を記入の上、作品を添えて当協会にご提出ください。携帯フォトのみ応募方法が異なりますので、詳細はお問い合わせください。

【応募締切日】
9月20日（木）
応募用紙が必要な方は当協会までご連絡ください。